



第51号 平成29年10月発行

医療法人碧水会 汐ヶ崎病院

茨城県水戸市大串町715番地

TEL 029-269-2226(代)

FAX 029-269-4387

<http://www.shiogasaki.net>

基本理念 私たちは、こころを病む方や家族の皆様にご安心いただけるよう、
よりよい精神科医療を提供し、地域に信頼される病院をめざします。



は
び
こ
れ
る
目
屋
の
溝
蕎
麦
橋
渡
る

写真：坂本 伸一郎
俳句：中村 恭子

目次

1 p. 表紙・目次

2 p. 茨城 DPAT 隊員研修に参加して

3 p. 汐ヶ崎病院主催

養護教諭対象講演会

4 p. 薬局業務について

5 p. 家族のつどい

～ランチ交流会～

6 p. 新任職員紹介

7 p. ニュージーランド旅行記

Vol.1 「アオテアロア」

8 p. 診療案内

院内花壇・表紙解説

編集後記



茨城DPAT隊員研修に参加して

平成29年8月5日・6日と2日間DPAT隊員の認定を受けるべく、今回で2回目となる茨城DPAT研修会に参加してきました。

DPATとは、大規模災害などで被災した精神科病院の患者さんへの対応や、被災者を初めとする精神疾患発症の予防を支援する専門チームです。このチームは医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）などから構成されます。

事務職である私は業務調整員という役職での参加となります。研修会などを受ける前、このお話をいただいた当初は何の知識もなく『事務職が被災地行って何するの？』というのが正直な感想でした。業務調整員（ロジスティック）とは、通称ロジと呼ばれます。被災地で医療活動を行うわけですが、実はそういった直接的な支援活動以外に非常に多くのことをロジは行う必要があります。例えば、被災地までの移動・機材の輸送手段の確保、被災地での宿泊場所や隊員の食料等の確保、通信機器の取り扱い、情報収集などのほかにも仕事は多岐にわたります。

今回の研修会では、すでに活動経験のある各役職の方々やDPATに関連のある団体の職員の方々の講話があり、通信機器の使い方のレクチャーを受けてきました。そして研修2日目の大規模災害演習では、本番さながらの緊張感の中で情報収集や対応に戸惑いましたが貴重な体験をすることができました。

近年、茨城においても東日本大震災、つくば市の竜巻被害、常総市の水害などの災害が起きています。つい先日、私のDPAT隊員証が届き隊員認定されました。

DPAT隊員としていつ何時起きるかもしれない災害に備え、平時より訓練やシュミレーションしておくことが非常に重要であると感じています。



事務部：黒澤 直樹

「汐ヶ崎病院主催 養護教諭対象講演会」開催のようす

当院では、早期介入機能の向上や地域との連携を図る目的から、平成 24 年より地域の学校養護教諭との定期的な勉強会を行っています。その取り組みの一環として始めた講演会も、今回で 8 回目となりました。

今回の講演は『スクールソーシャルワーカーってどんな仕事？ー子どもへの包括的・継続的な支援ー』でした。茨城県内でも、昨年度から県内学校へのスクールソーシャルワーカー（SSW）の派遣が始まり、子どもたちが抱える多様な問題に、医療との連携も含めた環境面からのアプローチを図ろうとの動きが進められています。しかしながら、学校では馴染みの薄い職種であることから、まだまだ SSW の効果的な活用には至っていない現状があります。そこで今回は、精神保健福祉士としての実践経験も豊富な東京成徳大学准教授の菊池春樹先生を講師にお迎えし、ご講演いただきました。SSW に関するレクチャーの後は事例検討を行い、子どもの支援における SSW の役割について、参加者で理解を共有しました。講演会の様子を少しご紹介します。



講師の東京成徳大学准教授 菊池春樹先生

日 時：平成29年8月26日（土）10:00～

場 所：当院作業療法室

『スクールソーシャルワーカーってどんな仕事？
ー 子どもへの包括的・継続的な支援 ー』

講 師：東京成徳大学応用心理学部臨床心理学科
准教授 菊池春樹氏（精神保健福祉士）



ワーク中の様子。菊池先生の仕掛けが盛りだくさんの60分でした。



学校・医療・福祉関係者など、たくさんの方にご参加いただきました。

【参加者の感想の一部】

- ・講演会含めて楽しい時間を過ごせ、勉強になりました。
- ・SSW については「こんな制度ができた」程度の知識だったので、今回は制度というより具体的なお話がたくさん聞けたので、とても勉強になりました。
- ・「立場の違いの理解と役割」というテーマが 1 部 2 部を通して学ぶことができ、充実した時間でした。

運営スタッフ側も、菊池先生、参加者の皆様からエネルギーをいただきました。今後もこのような機会を大切に、日々の臨床に励んでいきたいと思います。

臨床心理士：中澤 幸恵

薬局業務について

～薬局のお仕事 過去・未来～

約 25 年前、私が薬剤師になりたての頃は、『医師が処方した薬を調剤して患者さんに薬を渡すこと』が薬剤師の主な仕事。患者さんとの会話は『お大事にしてください』だけでした。

その後、入院患者さんに薬の説明をする『服薬指導』が始まりましたが、一方的に薬の説明をすることが精いっぱい。医師や看護師など薬剤師以外の職種との話はいつもビクビクでした。（だって、慣れていなかったんですもの…）

そんな駆け出しのころに比べて少しずつ経験を重ね、患者さんの話に耳を傾ける、医師や看護師など他職種と意見を交わす、そして患者さんにとって一番いい薬物治療は何かと少しは考えるようになった気がします。

最近、私が気にかけていることは薬の多剤併用（たくさんの種類の薬を飲むこと）。当院だけではなく複数の診療科から薬をもらう方も多いため、服用しているすべての薬を確認することはとても大事なことで感じています。

当院では外来患者さんのお薬を病院内で調剤していますが、もちろん薬歴管理や併用薬の確認、残薬の確認、お薬の説明なども行っています。

今後はIT化の導入などで業務を効率化し、薬の待ち時間の短縮や他の医療スタッフとの情報共有の充実化、そして、更なる薬の適正使用につなげることができると考えています。

やるべきことはまだまだたくさんあります。

入院患者さんの服薬指導の充実、退院後も安心して薬物治療が継続できるように薬剤師も地域で活動する、などなど…。

振り返ってみると、薬剤師の仕事は調剤室から病棟へ、病棟から地域へと変化・拡大しているなと感じます。

患者さんからも他の医療スタッフからも『薬のことはなんでも薬剤師にお任せ！！』と言ってもらえるように、これからも地道にやっています。



薬剤師：市原 直美

家族のつどい ～ランチ交流会～



家族会新和会の活動の一つである“家族のつどい”は、平成 25 年 7 月から 2～3 ヶ月に一度、ご家族の方々がゆっくり日頃の思いをお話しできる場と、お役に立つ情報を提供することを目的として開催しています。

平成 28 年度第 2 回に“病院見学会”と、栄養課の協力を得て、患者さんに提供している“病院食の試食会”を企画したところ、試食中、家族の方々から「家族の皆さんと和気あいあいと食事ができて感激した」「入院中どんな食事を食べているのか気になっていたが、同じ食事を食べて、彩りや味付けなど考えてられていて安心した」「こういう企画を続けてほしい」など大きな反響がありました。

以降各回テーマは違いますが、試食会を“ランチ交流会”と名称を変えて実施しています。ランチ交流会が、初めて会ったご家族同士でもお話がはずみ、又ずっと抱えていた思いを吐き出しやすい場にもなっているようです。

「今日来て良かった！」と言って帰られる姿をみて、家族会新和会を担当している医療福祉支援室 精神保健福祉士一同、これからもランチ交流会とご家族の皆様のお役に立つテーマを提供できるよう企画していこうと考えています。

是非、家族会新和会の活動をご理解いただき、“家族のつどい”に一人でも多くのご家族の参加をお待ちしています。

精神保健福祉士：佐竹 史子



平成 28 年度活動報告

- 第 1 回 患者様ご本人とのかかわり方のコツについて学ぼう！
～こんなときどうするの？～
- 第 2 回 病院見学会と病院食の試食会
- 第 3 回 私たちが面倒見ることができなくなった時のために
～住居・お金・身の回りのことはどうするの？～
- 第 4 回 院長を囲んでの懇親会
革細工で小物作り



平成 29 年度活動内容

- 第 1 回 お薬のおはなし
～薬の効果・飲み方など質問もお受けします～
- 第 2 回 認知症について
～認知力アップをめざして、脳若・脳活をしよう！～
※平成 29 年 11 月 18 日（土）開催
- 第 3 回 院長を囲んでの懇親会
※平成 30 年 2 月 3 日（土）＜予定＞



ニュージーランド旅行記 Vol.1 -アオテアロア-

ニュージーランドについてお話しします。

まだ年号が昭和だった1986年12月から約2年間、縁あってニュージーランドに住んでいました。以来、30年近くたった今もたびたび訪れる最愛の国、いわば第二の故郷となっています。

日本人のニュージーランドのイメージは、観光地で羊がいる豊かな自然の国、でしょうか？キーウィという飛べない鳥を思い浮かべるかもしれません（写真1）。ちなみに、キーウィフルーツはこの鳥に外見が似ていることから名付けられました

（写真2）。

北島と南島からなり、日本の5分の4の広さがあるのに、人口わずか4百万人ほどで、そのうち3百万人ほどが北島に集中しています。北島には温泉や火山、南島には造山活動による南北に連なる山々があり、裾野に平野が広がっています（図1）。最近、ニュージーランドとニューカレドニアは2千万年以上前に海に沈んだ巨大大陸「ジーランディア」のなごりだと分かったそうです。

お隣のオーストラリアと千キロ以上離れ、ずっと孤立していて、9世紀頃まで人間はいませんでした。オーストラリアと異なり、四季の変化に富む日本に近い気候風土で、植物はシダ類や古いタイプの木々が多く（写真3）、哺乳類はコウモリだけでヘビもいない、鳥と昆虫の楽園の森でした（写真4）。自然豊かな独特の景観を生かしてロード・オブ・ザ・リングやナルニア国物語、ラストサムライなどがこの国で撮影されたことをご存じですか？

初めて辿り着いたポリネシア系のマオリ人は、この国をアオテアロア（Aotearoa、白い雲のたなびく島 [ao=雲、tea=白い、roa=長い]）と呼びました。その後18世紀になってヨーロッパ人が植民し、開墾により森林が伐採された結果、現在の牧場風景が作り上げられました（写真5）。

鯨保護と核廃絶を謳っている国として有名ですが、19世紀に義務教育の無償制、児童手当や家族保証制度の導入、女性参政権、最低賃金制、8時間労働制が全て導入された先進国家でもあります。



（写真1）飛べない鳥キーウィ



（写真2）キーウィフルーツ



（図1）-Wikipediaより-



（写真3）



（写真4）



（写真5）

南島ホリフォードトラックにて（写真3・4）

南島ダニーデン近郊

ニュージーランドのざっとしたご紹介で第1回目の紙面がつけました。次回は、ニュージーランド最南端の島、スチュワート島訪問記です。どうぞお楽しみに。

高 沢 彰



汐ヶ崎病院 診療案内



	月	火	水	木	金	第1・3・5 土
精神科 心療内科	高沢院長	武井	高沢院長	三上	池田	予約診療 (午前のみ)
内科	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	
歯科			宮永			
・デイケア ・外来OT ・訪問看護	デイケア・外来OT・訪問看護は、月曜～金曜まで実施 しております。ご希望の方はお気軽にお問い合わせ下さい。					



- 診療時間 午前9:30～12:00(受付8:30～11:30)
午後1:00～5:00(初診・予約のみ診療)
 - 休診日 土曜(第2・第4)・日曜・祝祭日
- 初診の方は必ず予約が必要となります。
午前9:00～11:30、午後1:00～4:30にお電話下さい。
なお、他院からの紹介状がある方は必ずお持ち下さい。

院内花壇

朝晩が涼しくなり、院内の花壇もいつの間にか
落ち着いた秋色になっていました。



病院敷地内の
キーウィ棚。

手入れはされ
ていませんが、
ポツポツと実が
なっています。



表紙・解説



表紙写真：ミゾソバ

タデ科の一年生草本植物である。
湿地に生え、高さ40cm内外。葉は三
角形でソバに似、秋、白色で上部紅色
の小花をつける。若葉は食用、民間で
はリウマチの治療薬としていること
もある。

撮影場所：青森県西目屋村大秋

写真条件：CANON EOS1D, EF100 mm F2.8L

MACRO USM, f8, 1/100sec. iso200

編集後記

すっかり秋になりました
ね。本誌もいつの間にか
50号を突破しました。
皆様にはいつもさざなみ
をござ読下さり、心より
感謝申し上げます。

さて、実は当院のホームページもリニューアルを
果たしました。今後はホームページにも本誌さざ
なみを部分的にですが掲載させていただく予定で
す。今後もより良い情報発信をできるよう精進し
てまいりますので、広報誌・ホームページ共に、
宜しくお願いいたします！

(ホームページ URL → <http://www.shiogasaki.net/>)

広報委員：鈴木 崇志